

要旨

【目的】

わが国の少子化は社会問題であり、理想的な子どもの数は 2.24 人であるが、実際の子ども数は 1.71 人である。理想と現実の間にギャップがあるのは 1 人目の出産・育児体験が関係していると考え、1 人目の出産・育児体験に伴うトラウマの出現状態を把握し、2 人目の妊娠希望とどのように関連があるかを探索することを目的とした。

【方法】

研究デザインは自己記入式質問紙を用いた横断的記述研究である。都内の 2 施設にて、産後 6～12 か月の 1 経産婦を対象にした。トラウマについては分娩時は IES-R、産後は夫（あるいはパートナー）の言動満足度で判定した。次子妊娠希望については 2 人目を妊娠したいか、今の気持ちと将来的な展望を 5 段階で聞いた。分析ソフトは SPSS version22 を使用した。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号 15 - 087）を得て行った。

【結果・考察】

400 人に質問紙を配布し、226 人から回収し（回収率 56.5%）、その内の 220 人を分析対象とした（有効回答率 97.35%）。

IES-R の平均は 7.38 ($SD: 7.57$) であり、カットオフ値である 25 点以上は 7 人 (3.18%) であった。トラウマ得点 (IES-R) が有意に高かった因子は過去 1 年以内に辛いことがあった、帝王切開分娩、会陰切開がなかった、分娩中に孤独を感じた、早期皮膚接触を体験しなかった、医療者との信頼関係が低いであった。その内、分娩中の孤独をとっても感じた人はトラウマ得点が 25 点以上とトラウマ群であった。また、産後の夫（あるいはパートナー）の言動満足度は平均が 6.98 ($SD: 2.14$) であった。満足度が低い要因は、夫（あるいはパートナー）と同居していない、希望していない妊娠である、赤ちゃんの出生時体重が 2500g 未満である、夫（あるいはパートナー）の分娩時の立ち合いについて満足していない、分娩時のトラウマ得点が高かったことであった。

母親が満足する態度・行動は「育児中の私をねぎらってくれる」「私自身の体調や気分の変化に気づいてくれる」「私が疲れているときに何をしてほしいか聞いてくれる」であり、満足する言葉は「お疲れさま」「ありがとう」「家事手伝うよ」という結果であった。

次子妊娠希望では、豊かな出産体験ができ、夫（あるいはパートナー）の態度・行動に満足し、年齢が低い人が 2～3 年後に 2 人目を妊娠したいと思っていることがわかった。

【結論】

次子妊娠を考える要因は、母親は豊かな出産体験ができ、夫（あるいはパートナー）が分娩・育児をしている母親を精神的に支え、ねぎらい、感謝の気持ちを持つことであった。助産師は豊かな出産体験ができるようなケアを促進し、夫（あるいはパートナー）に、妊娠中から母親の分娩中や産後の身体的・精神的負担や、母親を精神的にサポートしていく具体的な態度や行動を伝えていく必要がある。